

平成22年5月30日現在

研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19520057  
 研究課題名（和文）チベット文献木版印刷プロジェクトの総合的解明  
 研究課題名（英文）The study on Tibetan xylographic printing projects

研究代表者  
 伏見 英俊 (FUSHIMI HIDETOSHI)  
 関西大学・文学部・准教授  
 研究者番号：80368191

## 研究成果の概要（和文）：

チベット仏教サキャ派に関連するチベット撰述文献（蔵外文献）の木版印刷を中心として、チベットの寺院史・地方史・王統史・伝記などの歴史資料を用いて木版本のコロフォンを解析しつつ、15～18世紀の木版印刷プロジェクトに於ける施主・出版責任者・主任校閲者等のプロジェクト構成員、並びに印刷プロジェクトの作業工程・印刷施設等を解明し、チベット文化史上における蔵外文献木版印刷の意義・役割を考察した。

## 研究成果の概要（英文）：

In this study I have attempted to research the xylographic printing projects on Tibetan non-canonical literature and the members that composed those projects, mainly focusing on block prints related to the Sa-skyapa tradition. This research first takes a general view of early period wood-block printing such as the Old Sa-skyapa edition. Based on Tibetan historical literature, then I took the persons in charge of each wood-block printing work into consideration. The meaning and the role of the xylographic printing projects on Tibetan non-canonical literature were considered through it.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

## 研究分野：チベット仏教

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学

キーワード：チベット、仏教、木版印刷、サキャ派、ナルタン寺、文化交渉

## 1. 研究開始当初の背景

チベット大蔵経の研究については、Helmut Eimerを始めとする欧米のチベット学研究者によって、目下精力的に進められている最中であり、大蔵経の全体像が解明される日が来

るのも、そう遠いことではないであろう。それに対して、蔵外文献の木版印刷については、その重要性にもかかわらず、ほとんど着手されていないのが実状である。確かに近年の国際学会等で、多くの木版本の発見が報告され

てはいるが、歴史文献に基づく実証的な研究は必ずしも多いとは言えない。したがって、チベット仏教史・政治史とチベット出版文化史との相互関係に着目した本研究計画を推進することは、チベット出版文化史研究上極めて重要である。特に、ネパールから大量の文献が出版されつつある現状を考えると、緊急に取り組むべき研究課題の一つと言えよう。

将来的には、サキャ派・ゲルク派・カギュー一派・ニンマ派などのチベット仏教諸派、並びにボン教に於ける出版文化史解明を目的とした「チベット木版印刷データベース（人名・地名・印刷所など）」の構築、外国の研究機関との連携などへと本研究計画をさらに発展させて行きたい。

## 2. 研究の目的

チベット仏教の祖師たちの著作並びに関連文献は、20世紀に至るまで様々な形で木版印刷が試みられ、今日に伝えられている。このような木版印刷が、祖師の教えを後世に伝え、チベット及びその近隣諸国に普及させることを一つの目的としていたことは疑いの余地がない。中でも、15世紀にチベットで開版された二つのサキャ派の木版印刷（サキャ古版とコンカルワ版）は、チベットの木版印刷史上、種々の観点からその重要性が注目される。本研究代表者は、論文「蔵外文献木版印刷についての一考察」

（『日本西蔵学会々報』、第48号、51-68頁、2002年）の中で、この15世紀の木版印刷について、

（1）サキャ古版はチベットに於ける初期の木版印刷本の一つであること

（2）コンカルワ版は、後世の木版印刷プロジェクトに於いて、木版印刷の原版作成のための標準的なテキストの一つとして採用されていること

（3）1730年代に開版されたデルゲ版『サキャ派全書』は、必ずしも批判的にテキストを校訂したわけではなく、厳密な文献研究には、デルゲ版以外の木版本・写本をも参照する必要があるため、古い写本に基づく15世紀のサキャ派の木版本が文献資料として重要であること

（4）中国からどのような経緯で出版技術がチベットに齎されたかを考察する上で、極めて貴重な資料であること

（5）祖師の著作に対する当時のチベット仏教界の需要を知ることができること等の重要性を指摘した。

本研究は、研究代表者の上述の研究成果を発展させたもので、チベット仏教サキャ派に関連するチベット撰述文献（蔵外文献）の木版印刷を中心として、チベットの寺院史・地方史・王統史・伝記などの歴史資料を用いて

木版本のコロフォンを解析しつつ、15～18世紀の木版印刷プロジェクトに於ける施主・出版責任者・主任校閲者等のプロジェクト構成員、並びに印刷プロジェクトの作業工程・印刷施設等を解明し、チベット文化史上に於ける蔵外文献木版印刷の意義・役割を考察することを主たる目標としている。具体的には、サキャパンディタ（1182-1251）の著作に関する15世紀の2つの木版印刷（サキャ古版とコンカルワ版）、ムスタンおよび中央チベットに於けるシャーキャ・チョクデン（1428-1507）の著作の木版印刷、ロウオ・ケンチェン（1456-1532）の著作の木版印刷を始めとする種々の出版プロジェクトについて、施主・出版責任者・各作業担当者（資材調達・写本蒐集・印刷用原本作成・印刷用原本の浄書・刻字・校閲などの担当者）を調査し、出版プロジェクトを考察して行きたい。

## 3. 研究の方法

本研究では、チベット文化史上に於ける蔵外文献木版印刷の意義・役割を考察するために、以下の5つの研究方法を採用した。

（1）サキャパンディタの著作に関する15世紀の2つの木版印刷（サキャ古版とコンカルワ版）に関する木版情報の蒐集：この作業では、その後の出版物及び撮影データに基づき、15世紀の2つの木版印刷に関する所蔵状況を調査し、入手可能な資料を蒐集する。

（2）チベットの寺院史・地方史・王統史・伝記などに基づく、サキャ古版とコンカルワ版に関する歴史的文献調査：この段階では、15世紀のサキャ古版とコンカルワ版に係る歴史文献を網羅的に調査・研究する。

（3）サキャ古版とコンカルワ版に於ける施主・出版責任者・各作業担当者（資材調達・写本蒐集・印刷用原本作成・印刷用原本の浄書・刻字・校閲などの担当者）調査：ここでは、木版本の出版計画のキーパーソンを調査することにより、15世紀の木版プロジェクトの概要を考察する。

（4）ムスタンおよび中央チベットに於けるシャーキャ・チョクデンの著作の木版印刷研究のための歴史文献の解読作業：今日に伝わる手書き複製本『シャーキャ・チョクデン著作集』所収テキストの幾つかは、その原本が15世紀にムスタンおよび中央チベットで木版されたものであることがコロフォンの記述によって確かめられる。そこで、この段階では、サキャ派の学匠シャーキャ・チョクデンの伝記等の歴史文献を基に、シャーキャ・チョクデンの著作の木版プロジェクトを解明して行くものである。

（5）ロウオ・ケンチェンの著作の木版印刷研究のためのゴル寺関連文献の調査などの

基礎作業：15～16世紀のサキヤ派の学匠ロウオ・ケンチェンは、三百を超える著作を残したが、彼の著作の木版本は、1940年代にデルゲで木版されたものと、近年 NGMPP によって撮影された古い木版本の存在が知られる。特に、後者の版木がゴル寺のプリントハウスに存在したことが歴史文献に記録されており、版木の確認できる貴重な木版本として注目される。そこで、この段階では、歴史文献を調査し、ロウオ・ケンチェンの著作の木版計画を考察して行きたい。

#### 4. 研究成果

(1) 15世紀の木版印刷プロジェクトにおける施主・出版責任者・主任校閲者等の構成員、並びに印刷プロジェクトの作業工程・印刷施設等に関する研究：

サキヤパンディタの著作に関する15世紀の2つの木版印刷（サキヤ古版とコンカルワ版）の木版プロジェクト解明を目的として、チベットの寺院史・地方史・王統史・伝記などの歴史文献に基づき、サキヤ古版とコンカルワ版に関する、人名・場所・学派・年代・著書をキーワードとした木版情報を蒐集し、2つの木版計画における施主・出版責任者・各作業担当者（資材調達・写本蒐集・印刷用原本作成・印刷用原本の浄書・刻字・校閲などの担当者）の役割等を検討した。

以上の調査結果を分析するため、今回の調査研究では、15世紀にチベットで木版印刷が開始される以前、既にモンゴルで木版印刷されていたチベット語テキストの影響の考察、並びに18世紀の『デルゲ版サキヤ派全書』の木版プロジェクトとの比較対照によって研究を進めた。

今回の調査を通じて、チベットにおける15世紀の木版印刷は、モンゴル・中国で印刷されたチベット語テキスト等の影響を受けつつ、チベット国内での木版テキストへの需要の高まりに呼応する形で開版されたと判断するための基礎資料を蒐集することができた。さらに、15世紀の木版印刷プロジェクトにおける施主・出版責任者・主任校閲者等のプロジェクト構成員、並びに印刷プロジェクトの作業工程・印刷施設等の概要を把握することができ、チベット文化史研究における木版印刷研究の意義を確認することができた。以上の研究成果は、2007年11月の第17回仏教文化学会で口頭発表を行うと共に、『東アジア文化交渉研究』（創刊号、2008年3月）に論文発表した。

(2) ムスタン及び中央チベットにおけるサキヤ派の宗教活動から見た木版印刷計画：  
ムスタンおよび中央チベットにおけるシ

ャーキヤ・チョクデンの著作の木版印刷計画とロウオ・ケンチェンの著作の木版印刷計画について、ゴル寺やムスタン関係の歴史資料を基に、印刷プロジェクトにおける施主・出版責任者・主任校閲者等のプロジェクト構成員、並びに印刷プロジェクトの作業工程・印刷施設等を検討した。

以上の調査結果を分析するため、今回の調査研究では、特に歴史文献に記述されたムスタン及び中央チベットにおけるサキヤ派の宗教活動の観点から、シャキヤ・チョクデンとロウオ・ケンチェンの著作の木版印刷研究を進めた。

今回の調査研究を通じて、ムスタン及び中央チベットにおけるサキヤ派の宗教活動という観点から、シャキヤ・チョクデンとロウオ・ケンチェンの著作の木版計画を捉えることの重要性が明らかになった。また、チベットにおける木版印刷が、モンゴル・中国を始めとする周辺諸国からどのような文化的影響を受けて成立したかを考察するための基礎資料を蒐集することができた。以上の研究成果は、『佛教文化学会紀要』（第17号、2008年10月）に論文発表した。

(3) 周辺諸国との文化交渉から見たチベット出版文化の研究：

サキヤ派関連の木版印刷プロジェクトの調査結果をチベット出版文化研究といった観点から考察した。特に、中国の出版文化との関わり、サキヤ派とナルタン寺の人的交流、木版文献の需要と供給、木版印刷完成までのプロセス（施主の発願・資材調達・写本蒐集・印刷用原本作成・印刷用原本の浄書・刻字・校閲）、ラダック地方における宣教師の活動などの観点から、チベット出版文化史に関する総合的研究を進めた。

今回の調査研究を通じて、チベットと中国の文化交渉および中央チベットにおけるサキヤ派の宗教活動という観点から、チベットの木版計画を捉えることの重要性が明らかになった。また、チベットにおける木版印刷が、モンゴル・中国を始めとする周辺諸国からどのような文化的影響を受けて成立したかを考察するための基礎資料を蒐集することができた。以上の研究成果は、第53回智山教学大会（2009年5月）、第19回仏教文化学会（2009年11月）、国際シンポジウム「文化交渉としての宣教布教—近代以降の新しい趨勢」（2010年1月）で口頭発表を行うと共に、『関西大学東西学術研究紀要』（第43輯、2010年4月）『新アジア仏教史9 須弥山の仏教世界』（校成出版社、2010年4月）に論文発表した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計5件)

- ①伏見英俊、mChims Nam-mkha'-grags と sNar-thang 寺の学系について、関西大学東西学術研究所・東西学術研究所紀要、査読有、43巻、2010、21-32
- ②伏見英俊、チベット仏教と蔵外文献の木版テキスト、東アジア文化交渉研究、査読有、2巻、2009、187-192
- ③伏見英俊、Kun-dga'-grol-mchog と Sa-skya 派仏教、佛教文化学会紀要、査読有、17巻、2008、1-11
- ④伏見英俊、チベット木版印刷プロジェクトとその構成メンバー、東アジア文化交渉研究、査読有、1巻、2008、263-276
- ⑤伏見英俊、チベット仏教と木版文化、泊園、査読無、46巻、2007、3-41

〔学会発表〕(計7件)

- ①伏見英俊、モラヴィア教会のチベット布教、関西大学文化交渉学教育研究拠点 第3回国際シンポジウム「文化交渉としての宣教布教—近代以降の新しい趨勢」、2010.1.23、関西大学
- ②伏見英俊、チム一切智者の著作について、佛教文化学会 第19回学術大会、2009.11.28、大正大学
- ③伏見英俊、周縁領域から見た中国文化、第53回智山教学大会、2009.5.22、智積院
- ④伏見英俊、シャーキャチョクデンの木版テキストについて、第18回佛教文化学会 第18回学術大会、2008.11.15、大正大学
- ⑤伏見英俊、チベットの木版文化、第52回智山教学大会、2008.5.23、東京別院 真福寺
- ⑥伏見英俊、チベット木版印刷プロジェクトの解明へ向けて 第17回佛教文化学会、2007.11.17、大正大学
- ⑦伏見英俊、ガワンチュータクの伝える教義論争、第51回智山教学大会、2007.5.27、東京別院 真福寺

〔図書〕(計1件)

福田洋一 他、佼成出版社、新アジア仏教史 第9巻 須弥山の仏教世界、2010、146-159  
および 177-201 頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

伏見 英俊 (FUSHIMI HIDETOSHI)

関西大学・文学部・准教授

研究者番号：80368191